

島根大教育 ○多々織道子

広島大教育 菊沢康子 関志比子

目的 進学率の上昇に伴い、婦人の高学歴化のなかで大学や短大における専攻をみると、家政系に属するとみられる分野に最も多く集中している。したがって、家政学を専門的に学んだ婦人と、それ以外の分野を専攻した者との実生活における学習行動を比較することは、生涯教育の観点より家政教育の体系化を検討する場合、大きな手がかりを与えるものと思われる。そこで本報では、大学・短大卒の高学歴婦人の専攻分野を家政系とその他の系の2つに分け、それぞれ家庭生活の諸問題について学習実態と家政教育に対する期待を明らかにすることを試みた。

方法 前報と同様である。大学・短大卒284名中、家政系専攻114名、その他の専攻172名無答28名となっている。

結果 家庭生活の諸問題を解決するための知識や技術の主要な供給源は、「家庭」「ラジオ、テレビ」「新聞、雑誌」などであり、内容によってかなり明確に区分できた。家政系専攻のものは、「大学・短大での学習」がこれらに続いており、なかでも「育児、子どもものしつけ」「健康生活」「家事のやり方」については、約半のものが供給源として指摘していた。また、家政系専攻の半数以上が、家庭科教育の効用を認めていた。さらに、家政教育へ期待する内容は、専攻によってそれほど大きな差異はなく、「健康生活」「家族の人間関係」「育児、子どもものしつけ」など従来からの内容と「消費者問題、公害問題」「精神生活」など社会的に新しく問題とされる内容を期待している。